

No.55 2012, Nov.

11 月・生神金光大神大祭号

<http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai>

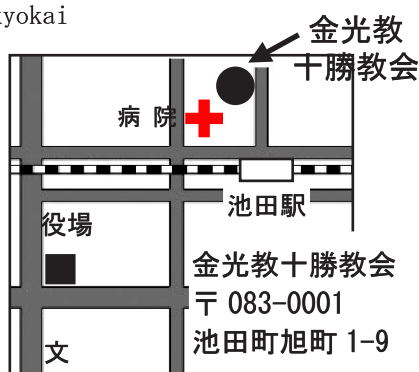
IKEDA

☎ 015-572-2322
fax 015-572-4213

十勝教会



だより 55



教祖奥城 (2012.9.10)

平成 24 年 生神金光大神大祭を迎えて

「おかげの中の信心」

「信心はせんでもおかげはやってある」
「何事もおかげの中の出来事」

これは教祖様が仰ったお言葉です。
本来の意味とは少し違いますが「おかげ」という言葉を「御利益」という言葉に置き換えてみましょう。「信心は

しなくても御利益は授けてある」、「何事も御利益の中の出来事」、信心を進化なくとも御利益があり、何事も御利益になる。実に有難い言葉であります。しかし、教祖様は「信心すればおかげになります」、「信心しなければおかげはない」ということも仰っていました。どちらかというと「信心しなければおかげは無い」という話の方が多いのです。

「信心しなくてもおかげは授けてある」というのに何故「信心しなければおかげはない」と言われるのでしょうか。

そもそも「おかげ」とはどういうことなのでしょう。

我々は「おかげ」と言う言葉を聞くとしても「御利益」ということに結び付けがちです。しかし、そうでは

ありません。確かに天地金乃神様は「願う氏子におかげを授け」とも仰っておりますが、同時に「天地の間に氏子あっておかげを知らず」と仰っています（明治6年の御神伝）。

これは「おかげ」とは「人の願いに対するおかげ＝御利益」だけではなく、天地の中に生かされていること自体が「おかげ」であるということです。つまり、「おかげ」というものは天地そのものと言ってもいいでしょう。

私たちは「天地」の中に生きています。その天地とは宇宙であり、地球であり、私たちが暮らす世界そのもののことです。

そしてこの天地は、色々な物質や、人間はじめ様々な生き物などで構成されています。しかしそれだけではありません。さらに天地を構成するものには、「目に見えない働き」があります。例えば天気や季節の変化などの天地の運行、

誰に世話されるでも無く生い茂る草花のようないのちの働き、そしてそのいのちを支える巧妙な仕組み等々。

つまりこの世界は目に見えるもの（私たちが存在を感じ取れる物）と目に見えない働きによって形作られているのです。さらにこの目に見えない働きは、例えば「時間」



が誰にでも平等に経過するように、人間や物に関わらず天地あるもの全てに平等に働きます。

そして、この目に見えない働きこそが天地金乃神様の「おかげ」に他なりません。

○

私たち人間もこの目に見えない働きの中で生かされているものの一つです。

そこで、人間をこの目に見えない働き「おかげ」の中に浮かぶ船だと考えましょう。この船は「おかげ」の流れに沿って航行していきます。流れに沿って走っていかば目的地に早く着くことが出来ます（何か願いがあればそれだけ早く叶うかもしれません）。

ところがこの「人間という船」はなかなか真っ直ぐに進みません。流れから外れてアチコチへ彷徨います。その船の針路を決めるのは船長です。そして、人間という船の長は「心」です。この心が「自

分の欲しい物」、「自分の行きたいところ」を求めて流れから外れていくのです。自らのためだけの心、教祖様の仰る「我情我欲」ということです。しかし流れから外れてしまっていますから、なかなか「おかげ」はありません。

どうすれば、再び「おかげ」の流れに乗ることが出来るでしょうか？

「おかげ」の流れを見つけるしかありません。しかし、「おかげ」は目に見えません。目に見えないおかげを見つけれられるのは、その大元である天地金乃神様だけです。

幸い、私たち一人ひとりの心の中にも神様はいらっしゃいます。私たちの心には「神様の分霊」^{わけみたま}がいらっしゃいます。ですから、その「神様の分霊」^{わけみたま}にカーナビのように導いて貰えば、再びおかげの流れに帰ることが出来るはずですよ。そして、この分霊^{わけみたま}が働き続けてくれれば流れから外れることは無く

なるはずですよ。



では、どうすれば私たちの心の中の神様が働いてくれるのでしょうか。

やはり、そのためには信心しかありません。ですから「信心しなければおかげは無い」のです。

有難いことに天地金乃神様は教祖様を通して、「今月今日で頼め、おかげは和賀心にあります」と信心の要点を示してくれています。また、歴代金光様は日々の信心を「何事もお礼を土台に」、「世話になる全てに礼を言う心を忘れずに」とお教えくださっています。この簡単なポイントさえ忘れずにいけば「後のおかげ」に繋がっていくはずですよ。

おかげを頂くための信心ではありません。「おかげの中での信心」を忘れずに日々を過ごさせて頂きましょう。

金光教十勝教会

この後の主な教会行事

- ・ 薫別講社生神金光大神大祭
12月5日(水)11時
- ・ 越年感謝祭
12月31日(月)13時30分
- ・ 元 日 祭
1月1日(火)13時30分

平成 25 年 教祖 130 年本部大祭団体参拝 の お 知 ら せ

平成 25 年は教祖 130 年のお年柄にあたり、金光教本部で記念の御大祭が仕えられます。

十勝教会でも奉祝の団体参拝を予定しております。詳細が決まり次第ご案内いたします。

(旅程予定日) 平成 25 年 10 月 5 日～8 日

※ 10 月 6 日(日)の祭典に参拝

教会 日 誌

平成 24 年 8 月 1 日から 10 月 31 日まで

8 月 3 日

北海道教区少年少女キャンプ「みどりのひろば」、かなやま湖畔キャンプ場、6 名参加。(左写真も)



8 月 16 日

教会創立記念祭・布教功労者報徳祭。



- 写真 (上下) -
布教功労者報徳祭

8 月 17 日

帯広市、S 家、葬儀式 (18 日まで)。

8 月 25 日

千歳市、S 家、百日御祝参り。

8 月 25 日

帯広市、S 家、旬日祭 (合祀祭まで)。

8 月 26 日

士幌町、M 家、葬儀式 (27 日まで)。

9 月 1 日

士幌町、M 家、旬日祭 (合祀祭まで)。

9 月 2 日

札幌市、M 家、合祀祭・納骨祭。

9 月 8 日

音更町、M 家、葬儀式 (9 日まで)。

9 月 10 日	金光家先祖祭、衛先生、みよ子先生参拝。
9 月 10 日	本別町、I 家、式年祭。
9 月 15 日	長沼町、S 家、二柱式年祭。
9 月 15 日	音更町、M 家、旬日祭（合祀祭まで）。
9 月 16 日	札幌市、K 家、式年祭。
9 月 22 日	秋季霊祭執行。
9 月 30 日	NJV・M 家、合同慰霊祭。
10 月 2 日	釧路市、S 家、式年祭。
10 月 4 日	帯広市、S 家、合祀祭・納骨祭。
10 月 6 日	岡山県 K 先生ご帰幽。7 日同葬儀式、衛先生家族参拝、（8 日まで）。
10 月 7 日	音更町、M 家、式年祭。
10 月 8 日	帯広市、M 家、感謝祭。
10 月 14 日	亀田教会布教 85 年記念祭、みよ子先生



- 写真（上下） -
秋季霊祭

10 月 14 日	音更町、O 家、式年祭。
10 月 14 日	士幌町、M 家、合祀祭。
10 月 21 日	音更町、M 家、合祀祭。
10 月 21 日	釧路教会大祭、交流参拝。
10 月 28 日	道東地区教会連合会役員会、北見教会、衛先生出席。

♪親神のよぎしのままに♪

一、親神のよぎしのままに
わが生神
取次の
代々を経て
神からも
両方の
親神の
生神を
神のひれ
照り映えて
取次の
とこしえに
仰ぎまつらん

二、
金光大神
道立ちしより
今につげり
氏子からも
恩人なりと
のらし給える
讀えまつらん
木綿崎山に
日の光なす
道の靈光を
仰ぎまつらん

三、
神のよぎしのままに
わが生神
取次の
代々を経て
神からも
両方の
親神の
生神を
神のひれ
照り映えて
取次の
とこしえに
仰ぎまつらん

食 前 訓
食物はみな人の命のために
天地乃神のつくり
与え給うものぞ
何を食うにも飲むにも
ありがたく頂く心を忘れなよ

食 後 訓
体の丈夫を願え
体をつくれ
何事も体が元なり

先 祭員着席
次 拜 礼
次 神前拝詞奉唱
次 取次唱詞奉唱
次 祭主祭詞奏上
次 祭主玉串奉奠
次 天地書附奉体
次 教会長玉串奉奠
次 参拝者代表玉串奉奠
次 金光大神賛仰詞奉唱
次 親神のよぎしのままに斉唱
次 拜 礼
次 祭員退下
次 吉備舞奉納「白菊」
次 御神伝奉読・講師紹介
次 教 話 金光教訓路教会長 江郷繁樹 先生

かみひと 神人 あいはかけよの生活運動

金 光 教 会
KONKOKYO
金 光 教 会

神人の道をあらわそう
神心となつて人を祈り
おれと喜びの生活を進め
神のおかけにめざめ
御取次を願ひ頂き
願 い
金 光 教 会 十 勝 教 会